

## インタビュー文字化データの見方

「文章理解研究」での文字起こしの方針として、発話に忠実に書き起こすことを基本とする。ただし、間の長さや発話の重なりを厳密に記述することはない。扱うデータが主にインタビューデータであり、複数の参加者の会話を分析する会話分析とは異なるためである。

一方で、本データには、中国語あるいはベトナム語の発話データが含まれるが、内容理解の便宜上、適宜以下のような注釈を付記した。参考にしてほしい。

インタビューデータに出てくる記号の凡例は以下の通りである。

### 凡例

I	インタビュアー	
C	調査協力者	
[]	注釈	①発話者の特記すべき行動がある場合[]でくくる (口で説明する代わりに実演するなど)
		②発話内容を理解するために、翻訳者が付け加えた翻訳上必要な情報を[]でくくって示す
		③学習者が例文の中の日本語を間違っ発音したり、母語で発音したりした時その発話を[]でくくる (固有名詞の「大分」を「だいぶ」と発音した時、「大分[「だいぶ」と発音した]」と記述する)
		④母語での発話内容が不明瞭である場合、そのまま日本語に訳したうえで、その後ろに[母語での発話内容が不明瞭]の意を各言語で記入)。
.....	言い淀み、言いさし	
?	相手への働きかけを目的にした疑問・質問	
↪	相手への働きかけを目的としない疑問	
「」	学習者が日本語で発話したとき、その発話を「」でくくる <中国語の例> 后面说どこにけいさいされた。 日本語の訳文：後ろは「どこに掲載された」と言っている	